

すごろくゲーム「平和^{ラボ}Lab.～平和研究室へようこそ～」

このたび、国際平和ミュージアムの学生スタッフが中心となってすごろくゲーム「平和^{ラボ}Lab.～平和研究室へようこそ～」(試作版)を作成しました。2階常設展示、平和創造展示室のテーマを中心としたすごろくゲームです。

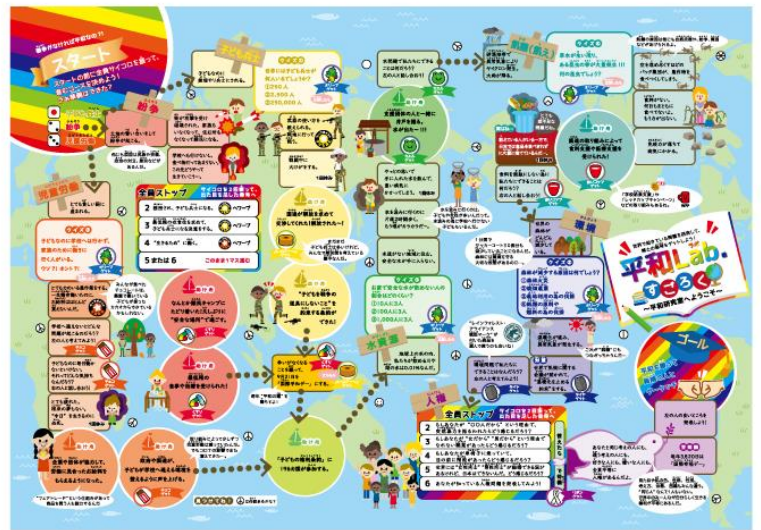
2019年から新型コロナウイルス感染症の影響で、当館も団体の来館を中止せざるを得ない状況が続き、2021年4月からはリニューアルのために2023年まで臨時休館しています。休館中で直接、館に足を運んでもらえなくても私たちが博物館を通じて伝えたいことに変わりはありません。学生スタッフが「戦争がなければ平和なの？」と問いかける平和創造展示室と同じメッセージを届けたく、このすごろくゲームの開発に至った次第です。

開発にあたっては、「2階常設展示の内容を伝えること」「対象は小中学生」という条件を設定し、5月～7月にかけて週1、2回のペースで毎回1時間30分程度、3～5人の学生スタッフで話を進めていきました。

まずは平和創造を考えるためのキーワードをあげて、問題の所在と解決方法には何が考えられるか議論することから始めました。児童労働の項目だけでも、こうした意見がでてきます。

- 児童労働をしている子どもはどう思っているのか。
- 文化的暴力・構造的暴力という観点から見ることの必要性
- 解決策としてのフェアトレード→何を解決しようとするのか。
- 背景(児童労働の問題)を知って貰ったあと、今度は身近なところで自分ができることを考えてもらう。
- 子どもの権利条約、国連労働機関(ILO)の役割は何か
- すごろくをする子どもが自分と年代の子どもが置かれている状況について気づききっかけづくりにする。

時には「宇宙ゴミ」の話や、化粧品の開発過程で生じる問題(動物実験、環境への影響)など、スタッフ同士でも知らない話題も持ち上がり、喧々諤々に意見が交わされ、内容を抽出していきました。



すごろくの素案を思案中

伝えたい項目が出そろった後、次の段階ですごろくのマス目同士をつなぎ合わせる際にも工夫を凝らしています。参考にしたのは他施設、団体がつくった「SDGsすごろく」、「古墳の歴史すごろく」、「難民の脱出をたどるボードゲーム」などです。すでに似たような内容を手掛けたゲームもありましたが心がけたのは、「国際平和ミュージアムがつくるすごろく」という点でした。

環境、飢餓、児童労働、紛争等それぞれ個別の事象でありながら、問題の根本的な部分では密接に関わっているということ、ゲームを通じて体感してほしかったからです。紛争が原因で子ども兵士が生まれること、児童労働へとつながる社会不安を引き起こすこと、それを少しでも改善するために国際社会が取り組んでいることなど、ゲームを進める中で学べるような仕掛けを考えるのに苦慮しました。

一旦すごろくの形にして試演してみると、作り手の思いとは別にゲームとしての難しさも浮上りました。例えば、当初は飢餓（飢え）問題の箇所では、途上国の貧困と飢えを話題にしなが、日本のフードロスもマス目に取り入れそこに止まると「数マスもどる」指示を設定していました。それだけ食料を無駄にするという行為の重みを伝えたかった為です。しかし実演してそのマス目に止まると、プレイヤーは想像以上に意気消沈し、進行上の障害になることが判明しました。相手にどのように伝わるかを考えるのも、博物館にとって大切な観点ということに改めて気づかされた一例です。

こうして、試行錯誤を繰り返して「紛争」「児童労働」「子ども兵士」「水資源」「飢餓（飢え）」の各テーマに関する事象をたどり、最終的に「人権」のマスで自分の意見を述べるすごろくが完成したのです。ただマス目を辿るだけではなくゲーム上にアイテムを用意し、獲得数によって「博士」の称号が得られるルールも設定しました。これは、タイトル「平和^{ラボ}～平和研究室へようこそ～」にも表れているように、大学らしく問題を研究していく道筋を示しています。



試作実演中

実際携わってきた学生スタッフたちの反応ですが

- 年齢層、立場、文章での伝え方を考えるのが大変だった。
- 子どもを想定して、(複雑な問題がからんだ内容でも)率直に話げできた。
- 自分でも知らなかったことを知ることができた。

といった感想を聞きました。アンケートを回収して、「子どもに楽しんでもらう為につくったので、伝えたいことが伝わったという驚きがあった」、「感想という反応がうれしかった」という声があがったのは、関わった学生スタッフたちにとっても、博物館での来館者との対話の一端を経験することにつながったのではないのでしょうか。

試作版のすごろくには一これは自画自賛になりますが、結構いいことが書いてあると思います。これからアンケート結果や意見を集約して改善し、2021年12月には改訂版を公開する予定です。試作版を楽しんだ人も、そうでない人も期待してどうぞお待ちください。

※なお、試作版（現在非公開）をご希望の方はお問い合わせください。

(学芸員：田鍬 美紀)

学生スタッフ 活動記録

休館中とはいえ、メディア資料室の学生スタッフの仕事は従来とはあまり変わっていません。主な作業は二つあり、一つは寄贈寄託資料に対する整理の作業で、もう一つは図書配架作業です。接客の仕事は去年から減っており、今はほとんどなくなりました。ただし、コロナ対策として、消毒などの作業は依然として徹底しています。

休館後、新しく日課になったのは、水捨てという作業です。二階の展示室の除湿機は本来、二階展示室学生スタッフがする作業でしたが、休館にともない、シフトに入っているメディア資料室学生スタッフがすることになりました。さらに、梅雨に入り、中野記念ホールにも強力な除湿機を二台導入しました。毎日、朝出勤した後と夕方退勤する前に、二回水捨てをします。特に一晩中雨が降った翌日の朝、中野記念ホールの除湿機の水箱に、運びにくい程度の水が満ちています。梅雨時期の京都の湿度がこれほど溜まっていることに対して驚きながら、資料保存の難しさをさらに実感しました。そして、除湿機への感謝も溢れてきました。

また、リニューアルにともない、国際平和ミュージアムにあるものはすべて立命館大学衣笠キャンパスの洋洋館に一時的に運ばなければなりません。そのため、洋洋館内の保存場所に対する虫の調査を行いました。私は先生方と一緒に、事前に洋洋館に設置した虫を捕る箱を回収しに行きました。その時はミニ出張の楽しい気分になりましたが、洋洋館の環境に対して、心配しています。私は前に洋洋館で授業がありました。洋洋館はほとんど太陽の光にあたる所があり、また後ろはすぐに衣笠山です。ゆえに湿度

メディア資料室学生スタッフ編

が強く、虫も多くいます。虫箱に対する分析はまだ進行中ですが、なんとか資料が虫の被害に遭わないように折っています。

最近、引越しの準備として、資料を整理する必要があり、そのために資料のリストを作りました。あらためて国際平和ミュージアム所蔵の資料は豊富であることを感じました。平和は人々が守らないといけない宝物であり、決して自ら現れてくるものではありません。今の世界はだんだんと分裂している傾向にあり、戦争が起こる恐れが高まってきました。今こそ、大声で平和を世界の人々に伝えるべきです。国際平和ミュージアムに来て戦争の恐ろしさを体得することができない時節柄、私たちメディア資料室の学生スタッフにとって、資料を大事に保存し、また丁寧に資料を整理して公開するのは、平和を世界に伝えることに自分の小さな力を貢献できるとても意義のある仕事だと思います。

(メディア資料室学生スタッフ：唐 鈺)



『「核兵器のない世界」をめざすために』 実施報告

開催日：2021年6月26日(土) 18:00~19:30

形式：オンライン講演会 (Zoomウェビナー)

講師：川崎 哲 氏 (ピースポート共同代表/ICAN国際運営委員)

国際平和ミュージアムでは2020年度に核兵器禁止条約に関わる「館長・名誉館長声明」の発出およびピースポートから講師をお迎えしてのNGOワークショップを開催してきました。今回は、これまでの取り組みを踏まえ、ICAN国際運営委員/ピースポート共同代表の川崎哲氏を講師に迎え、核兵器のない世界をいかに実現するのかを参加者とともに考える企画としてオンライン講演会を開催しました。

講演では川崎哲氏より、核兵器禁止条約発効を速い世界の話ではなく、私たち一人一人の身近な課題として考えることができるような内容をお話いただきました。

最初に、「核兵器禁止条約」は、「核兵器を非人道的な兵器として、全面的かつ完全に禁止し、核兵器の廃絶への道筋を定め、核被害者への援助を定めた」条約であり、核兵器が国際条約上明確に違法であることが確認されるという画期的な条約であることの紹介がありました。また、「核兵器禁止条約」は2017年7月7日に採択、2020年10月24日に50カ国が批准し、2021年1月22日に発効しましたが、そのことは「核兵器の終わりの始まり」(ICANのノーベル平和賞受賞時のサーロー節子さんのスピーチ)であるため、今後の私たち一人一人の取り組みが重要となってくることが強調されました。

次に2022年には、核兵器禁止条約の第1回締約国会議やNPT再検討会議が予定されており、それらの会議で「核兵器禁止」に向けた具体的な課題が確認されることが重要であること、日本の現状としては、日本の首脳は日米共同声明において「米国は核を含むあらゆる種類の米国の能力を用いた日米安全保障条約の下での日本の防衛に対する揺るぎない支持」を表明していること、日本の世論では7割の国民が「核兵器禁止条約に参加すべき」としているのに対し、国会議員の28%、都道府県知事の42%、市区町村の32%しか核兵器No!の立場に立っていないことの紹介がありました。このよ

うな現状において、議員にプレッシャーをかけていくことが重要であり、「議員ウオッチ」の取り組みの紹介がありました。

そして、今回の講演で強調されたのが「規範と共に社会は変わる」ということです。兵器廃絶の歴史(生物兵器、化学兵器、対人地雷、クラスター弾)や社会制度(奴隷制、女性の参政権、世界人権宣言、アパルトヘイト、禁煙、ハラスメント等)は規範とともに制度が変わってきたこと、そして現在、多くの銀行が核兵器製造業に投資をしないという事例が増えてきていることの紹介がありました。

2021年、私たち一人一人が規範を意識し、行動していくことが求められています。

講演後には視聴者から出された質問の中から5件の質問に回答いただきました。

最後に主催者を代表して、立命館大学国際平和ミュージアムの安斎育郎名誉館長の挨拶があり、国際平和ミュージアムの初代館長である加藤周一氏の言葉「核兵器は無くせませす。それが必要だからです。」が紹介されました。

(国際平和ミュージアムオフィス：清水 郁子)

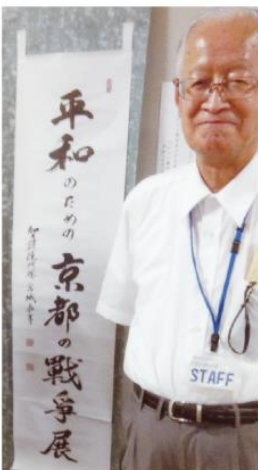
参加者の声

- ・とてもわかりやすいお話で、核兵器を取り巻く現状や問題をよく理解出来ました。
- ・これから私たちにできることが何であるのかを知ることができました。子供たちや多くの人達に伝えていきたいと思います。
- ・日本の核兵器廃絶についての立場や、抑止力の考え方など、多面から理解が出来てよかったです。
- ・被爆者の話を聴いて涙し二度と戦争してはならないと思いますが、そこまで止まっている人がほとんどかもしれません。しかし、私たちは何をどうすればいいのか、私たち一人一人が主権者として行動することが大切だと感じました。



川崎 哲 氏 (左) と安斎 育郎 名誉館長 (右)

ボランティアガイドコラム



2か所で、約10分間強のガイド体験記です。

1つ目は、「現代の紛争」コーナーです。

展示内容は、現代といいながら、よくて凡そ30年前くらいまでです。ここでは、一番上の大きい地図に「紛争地」が赤く表示されています。個々に細かく話す時間ありませんので、「各地の赤い国・地域に、例外を除いて、大きな共通点があります。それは何でしょう？」と問いかけます。30秒ほど待ちますが、今まで殆んど正解はありませんでした。答は、「地下資源です」。多大な利益をもたらす地下

資源を、「掠め取り、儲ける」勢力による紛争こそが、各地の紛争の根源であることを話します。

2つ目は、1夜にして11万人もの焼死者を出した「東京空襲」の写真の前です。「戦争にはルールがある」ことを強調しています。包丁を手にして、中学生(男子)のお腹をズブッと

「展示ガイド」体験記

刺した真似をします。(中学生は、お腹を引きます)そして、「死んでしまいました」⇒これは何の罪?と問います。「殺人罪」との返事があります。そこでルールその1、相手国に**宣戦布告**をしたら、戦場では相手の兵士を何人殺しても**殺人罪に関われない!!**寧ろ、多数殺したら自国から褒められる=勲章を貰える。ルールその2、捕虜を虐待してはいけない。又、自国の兵士として使ってはいけない。そして大事なルールその3、戦場でない所で、無辜の国民を虐殺・虐待してはならない。⇒**無差別爆撃は、許されない**。だからこそ、今でも東京他、戦災の賠償を求める裁判が続いているのです!!ルールその4、終戦(敗戦か勝戦)は、戦場で白旗を挙げただけでは処理できない。トップ同士の(終戦講和)条約などに署名・調印することで成立します。この4つのルールから外れていればすべて紛争です。撃ち合っていない戦争ではなく、紛争です。

中学生を念頭に入れて、分り易く、短時間(3~5分)で伝え、気づいて貰うことを目標にしてみました。

今回のような撮影記録が、多くのポイントでなされ、ガイド間で学びあえる手掛かりになるのなら、リニューアル休館中と雖も、大変意味のある取り組みであると思いました。

(ボランティアガイド：伊藤 昭)

遊心雑記

PeaceとPayは仲間？

安齋 育郎（国際平和ミュージアム名誉館長）

ペイパル・ホールディングス・インコーポレーションというアメリカの会社は「ペイパル・サービス」という電子決済で知られています。1998年に設立されてから世界中で約3億人が利用していると言われます。ペイパル（PayPal）の特徴は、事前に銀行口座やクレジットカードの情報を登録しておく、実際の送金相手に個人情報伝えずに送金できることです。

先日、私が事務局を手伝っている「平和のための博物館国際ネットワーク」（INMP）で、ペイパルがらみの「事件」が発覚しました。INMPの事務局は、2018年にオランダのハーグから京都の立命館大学国際平和ミュージアムに移ったのですが、ハーグ時代のペイパル・アカウントがまだ生きていて、そちらに会費を納める会員が何人かいるようなのです。古いアカウントを即時停止して無効にするよう、現在、旧事務局関係者と協議中です。

ところで、平和を意味する「peace」は、「平和・平静・敵意欠如・調和」などを意味するラテン語のpaxが語源です。

一方、ペイパルの「pay」は「平和にする、調停する、安心させる」という意味のラテン語pacaに由来し、これまたpax「平和」から派生したものだそうです。もともとの意味が転じて「借金を清算する＝支払って安心させる」という

意味になったようですね。

こう見てくると、peaceとpayは語源的には根っこが同じ「仲間」のようですが、INMPのペイパル・アカウントをめぐる「事件」も平和裏に解決することを期待したいものです。

ところで、平和学の分野で「パクス・アメリカナ（Pax Americana）」という言葉が使われますが、これは「アメリカによる平和」という意味であり、超大国アメリカの覇権が形成する「平和」を意味します。しかし、アメリカの覇権のもとで、沖縄基地問題をはじめ多くの非平和的な問題が起こっており、力に物を言わせて押さえつける支配のあり方は困りものです。



ハーグ（オランダ）の平和宮を訪れたINMP関係者（2012年5月2日、右から2番目が筆者）

リニューアルのため、2021年4月～2023年9月（予定）まで休館いたします。

「デジタル平和講義」のご案内

国際平和ミュージアムの休暇中の取り組みとして「デジタル平和講義・講話」の開発を行いました。

それぞれ30分程度の内容でDVDにてご希望の団体等に提供いたします。

テーマと講師は以下のとおりです。ご希望の場合は、お電話にてお問合せください。

- | | |
|-------------|----------------|
| ①核兵器禁止条約 | （講師：安齋育郎 名誉館長） |
| ②原発と環境 | （講師：安齋育郎 名誉館長） |
| ③基地問題と沖縄 | （講師：安齋育郎 名誉館長） |
| ④科学的な見方・考え方 | （講師：安齋育郎 名誉館長） |
| ⑤国連と平和 | （講師：吾郷真一 館長） |
| ⑥人権と平和 | （講師：吾郷真一 館長） |

また「デジタル平和講義」の外に、
当館の平和友の会のみなさん達による「デジタル平和講話」の開発も行っています。
こちらは準備が整い次第当館ホームページにて案内させていただきます。

立命館大学国際平和ミュージアムだより

立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

第29巻 第2号（通巻85号）2021年10月30日発行
編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL：075-465-8151 / FAX：075-465-7899
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



日本平和博物館会議
ASSOCIATION OF JAPANESE MUSEUMS FOR PEACE

今後、特別展のご案内・ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付をご希望されない場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名、団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、国際平和ミュージアム（075-465-7899）へFAX送信ください。